御嶽神社あれこれ

緋色の鎧

西岡千鶴

武州御嶽神社所蔵の国宝「赤糸威鎧」は甲冑の名称が表しているように赤い糸で組まれた組紐が鎧全体を覆っています。大部分は明治時代に行われた修理時に化学染料で染められた組紐で、色が褪せて紫がかった色に変わっていますが、部分的に残る本来の威糸は八百年以上経ているにも拘わらず濃く鮮やかな赤色をとどめています。平安時代末期から鎌倉時代を通していくつかの赤糸威鎧が作られていますが、それらは例外なく鮮やかな赤色です。

平安時代に成立した『延喜式』には赤色を染める材料に茜、蘇芳、紅花が記されており、特に茜を用いた場合の色名に「深緋」「浅緋」という字をあてています。緋という字の中の非は羽が左右にぱっと開いた様を表し、そこから緋は目の覚めるような鮮やかな感じを与える糸や布の意になったといわれています。同じ赤色でも蘇芳、紅花は褪色しやすく、陽の光の下でも常に輝くような赤を発する茜染めにこそ緋の字をあてたのではないかと思われます。

茜は含まれる色素成分の違いにより、日本茜、西洋茜（原産地はペルシャ、インド）に分かれ、どちらも根に色素があります。日本茜はアカネ科の越年草で四枚の葉が放射状に開いて黄緑色の小花が咲き、秋には黒色の実が成り、棘があるので繁茂すると絡まりあって雑草然としてきます。源氏物語や枕草子に八重葎とあるのがそれです。西洋茜は六葉茜とも呼ばれ、六枚の葉を持っています。

日本茜草

三十年ほど前までは茜で濃色に染めるのは非常に困難といわれており、当時、青梅市からの依頼を受けた赤糸威鎧の復元模造製作において、染色と組紐を担当していた私は、かなり失敗を重ねましたが、茜染に関するいくつかの論文に出会えた僥倖もあり、濃色に染めることが出来た時は心から安堵しました。当時の研究では西洋茜で染められた、と報告されており、私も西洋茜で染めましたが、その後、某甲冑研究家から譲られた御嶽神社所蔵の赤糸威鎧の威糸の残片を、平成十五年、共立女子大学教授齋藤昌子先生により最新機器を用いて分析を行っていただいたところ、日本茜による染色であることが分かりました。近年の研究によれば、濃色に染めることも比較的容易であることがわかり、日本茜を栽培する方も増えてきているようです。

この日本茜染の威糸の平組紐には現存する他の甲冑には見られない特徴があります。鞆、袖、胴の部位ごとに使われている平組紐の幅を変えていることです。また、紐の構造も特殊なものであることが判りました。

織物は経糸と緯糸が九十度の交差による組織ですが、組紐は糸が斜めに交わる組織なので、紐の表面はV字が並んでいるように見えます。Vを二畝と数えますと赤糸威鎧の鞆は十畝、袖は十二畝、胴は十四畝になっています。畝数で幅の調整をしているのですが、この組紐の組織は全て二間と三間の混合組です。「間」は組紐独自の表現で、二間は一条の糸が二条の糸を越しつつ組まれていくことです。そして、二間三間混合組であることから「クテ打組紐技法」で組まれたことが分かります。また、赤糸威鎧には、ふんだんに使われている赤色を引き締めるように耳糸、畦目は紺、浅葱、白色の段柄の角組ですが、明治の修復時に付けられた耳糸や畦目は本来の紐とは構造が異なっています。残っている当初の耳糸は三六条、畦目は二六条で、いずれも現在広く行われている丸台と錘玉による技法（桃山時代～江戸時代初期に導入される）では組むことが困難で、これもクテ打技法で組む方が理に叶い、また容易でもあります。

この組紐技法は古代から日本を含む世界各地で行われており、現代まで数か国で続けられていますが、わが国では一度滅んでしまいました。この技術は三十数年前に復元されましたが、少しでも当時と同じような紐を再現できるよう精進しなければと思っています。

（組紐師・西岡甲房）

御岳山に暮らすムササビ ムサくん

御岳ビジターセンター

ムサくんだより

「御岳山に暮らす守り神」

ヘビは昔から「守り神」と言われてきました。特に人の暮らしのそばで暮らすアオダイショウなどは、家にいるネズミを食べてくれることなどから家の守り神や神様の使いとして大切にされてきたと聞きます。

御岳山では本州に暮らす、アオダイショウ、シマヘビ、ヤマカガシ、ヒバカリ、ジムグリ、マムシ、タカチホヘビ、シロマダラの八種類のヘビにすべて出会うことができます。

とはいえ基本的に神出鬼没です。なかなか狙って出会うことは難しいですが、御岳山に暮らす方々にお聞きすると「今日も畑にこんな（一m以上）大きなアオダイショウがいたよ～！」「うちの庭の植木鉢をどけたらヤマカガシがいた～！」などなどいろんなところにヘビと出会うチャンスがあるようです。

そんなヘビたちは、主にアオダイショウはネズミや小鳥、ヤマカガシはカエル、タカチホヘビはミミズ…などそれぞれ偏食で好む獲物が違います。出会う場所もロックガーデンなどの沢沿いではジムグリやヒバカリ、長尾平のような開けた場所ではアオダイショウやシマヘビ、登山道の道脇などではヤマカガシ…と種類ごとに好きな環境も違うようです。

ヒバカリ

ジムグリ

ヘビたちが暮らしてくためにはご飯となる獲物が暮らしていなければならず、個性豊かな八種類のヘビに出会える御岳山はそれぞれのヘビたちを育むための豊かな環境があるといえます。

あなたが出会ったヘビはもしかしたら、この神宿る御岳山に暮らす守り神やその使いかもしれませんね。

本能的にヘビが苦手な方もいらっしゃるかもしれません。ヘビたちは、こちらがちょっかいを出さなければ噛みついてくることはありませんので、ご安心ください。

令和五年

大口真神式年祭 御奉賛のお願い

諸災退除の守護神である大口真神の御神徳を輝かしめて、世界の平和と安寧、そして講中崇敬者皆様の家内安全・商売繁盛・厄難消除を祈念する「大口真神式年祭」を令和五年に控え、修理事業および境内整備等を順次進めております。

皆様の深いご理解とご信仰を賜り、心からの御奉賛を仰ぎたくお願い申し上げます。

御奉賛　一口　二千円～

敬神奉賛員募集のご案内

当社では、敬神奉賛員を募集しております。敬神奉賛員とは、御嶽大神の御神徳を敬い、皆様の心の拠りどころとして、また武蔵御嶽神社の更なる護持発展を目的に創設いたしました。

奉賛員には例祭、祭典・行事のご案内のほか、新年に向けての御神札など各種の特典が受けられます。趣旨にご賛同いただき、ご入会下さいますようご案内申し上げます。

賛助費　五〇〇〇円

※詳しくは、社務所までご連絡下さい。